

博士論文

【題目】ロヒール・ファン・デル・ウェイデン作《七秘蹟祭壇画》研究

【執筆者】本橋 瞳

【提出先】立教大学大学院キリスト教学研究科

【提出日】2014年3月31日

【要約】

本論文は、北方ルネサンスの代表的画家ロヒール・ファン・デル・ウェイデン作《七秘蹟祭壇画》(1440～1445年頃、板・油彩、アントワープ王立美術館所蔵、所蔵番号 inv. 393・5)を研究対象とし、その図像分析と解釈を行った作品研究である。画家ロヒールは生前から国際的な名声を博していたが、史料から真作と認められる作品は僅かであり、本作の研究史においても制作年代の推定、依頼主や奉納先、描かれた人物の同定等、作品の来歴を巡る史実関係の検証が主流を占めてきた。これらを踏まえて、本論文では当時のキリスト教社会において七秘蹟図像が果たした意味を再考し、当時の教会をめぐる思想的背景から《七秘蹟祭壇画》を新たに捉えなおすことを目的とする。

本論文は、論文編（序、第1～9章、結、付録、参考文献）と図版編（図版、図版リスト）から成る。

本論文の構成は、まず序において研究史の再検討および2007年～2009年に行われた大規模な作品修復の成果に基づき、先行研究の主な二つの問題点について整理を行う。その一つは、絵画の主題である七秘蹟図像に関する分析が現在においても不十分であること。さらにもう一つは、《七秘蹟祭壇画》と同じ注文主がほぼ同時期に制作させた重要な関連作《七秘蹟タペストリー》（ニューヨークのメトロポリタン美術館、ロンドンのヴィクトリア&アルバート美術館、グラスゴウのバーレル卿コレクションに各断片の状態でも所蔵）がこれまでほとんど注目されてこなかった現状である。こうした問題点に着目することで、本研究のテーマとなる図像分析の方向性と関連作品との比較研究の道が示される。

第1章「作品情報」では、作品の現状と造形的特徴について詳細な観察と記述がなされる。本作は3枚のパネルからなる凸型の多翼祭壇画形式をとるが、画面にはゴシック聖堂の内部空間が描かれ、中央パネルには巨大なキリストの磔刑像、両翼部には題名の由来となる七秘蹟図像が左右に分けて配されている。これらの造形的特徴を詳細に観察することで、弟子の手が入るものの大部分をロヒールが手がけたとする制作者の帰属問題と1440～45年という制作年代の検証がなされる。さらに、本作が当時のトゥルネ司教ジャン・シュヴローの依頼により制作され、トゥルネ大聖堂司教礼拝堂へ奉納されたという来歴の妥当性について論じ、研究対象の基礎情報の確認を行う。

第2章「聖堂内部の巨大な磔刑図」では、キリストの磔刑場面の図像分析とその解釈に取り組む。ここで本磔刑図の、聖堂内部空間への登場という空間位相性(トポグラフィー)、および視覚体験に伴う物質性と幻想性への変化という特徴を、マザッチオ作《聖三位一体》(1427年)との比較を通して浮き彫りにし、さらに《七秘蹟祭壇画》の革新性が、聖堂内部への磔刑図および七秘蹟図像の共演にあることを示す。加えて、これらの場面選択および図像的特徴を、同時代に開催された東西教会の合同公会議「フィレンツェ公会議」で制定された大勅書『エクスルターテ・デオ』(1439年)の七秘蹟規定との比較検証を試みる。

第3章「七秘蹟図像」、続く第4章「各秘蹟図像」では、本作の主題である七秘蹟(洗礼、堅信、告解、聖体、叙階、婚姻、終油)の神学理解の歴史およびその絵画化における美術史の変遷を分析する。ローマ・カトリック教会において「神の隠れた神秘」を目に見えるしるしとして示す儀式、七秘蹟は、その概念と儀式方法が一定せず時代の流行や地域性が認められるが、図像表現においては14世紀のイタリアにおいてトマス・アクィナスの『信仰箇条と教会の諸秘蹟について』の神学解釈をもとに誕生し、その後のヨーロッパに広く伝播していった。《七秘蹟祭壇画》もその系譜の延長上に位置づけられることを確認する。但し、本作では「キリストの磔刑」が画面中央に配され、その周辺に七秘蹟の全場面が配置される構図的特徴に、秘蹟の起源となる「受難」の強調を読み取り、この絵画空間の象徴性と先の大勅書『エクスルターテ・デオ』における七秘蹟概念との共通性を明示する。加えて、本作の各秘蹟図像の上空を舞う天使の持つ巻物には銘文が記されているが、そこには大勅書テキストと同一の引用元が認められ、共通の発想源が示唆される。以上、第2～4章に渡る図像分析によって《七秘蹟祭壇画》と大勅書『エクスルターテ・デオ』の、イメージ(図像)とテキスト(巻物銘文)に共通する秘蹟概念の理解が浮彫りとなり、本作と、七秘蹟を巡る教会史との同時代性を明らかにする。

第5章「《七秘蹟タペストリー》の重要性」では、序でその重要性を指摘した《七秘蹟タペストリー》の復元構成を試みる。史料の精査から、現存する断片は原作下絵を元に再制作されたコピーであることが判明したが、祭壇画と同じ注文主によって依頼され、共にトゥルネ大聖堂の司教礼拝堂へ奉納されたと考えられるタペストリーの図像を今に伝える重要作である点に変わりはない。作成された復元図から、中央に天蓋装飾と祭壇のある叙階図、左右の上部に旧約聖書の場面、下部に七秘蹟図像という予型論(タイポロジー)を意識した構図が明らかとなった。

第6章「《七秘蹟タペストリー》の図像分析」では当該タペストリーの比較研究を扱う。まず欠落した中央下部を、現存部の分析から司教叙階図と確認し、さらに依頼記録やシュヴローの政治的状況から、この場面が依頼主自身の司教叙階図である可能性を考察する。さらに《七秘蹟祭壇画》の堅信図で秘蹟を行う司教としてのシュヴローの登場、およびシ

シュヴローのキリスト教会における政治的状況から、両作品における依頼主の、トゥルネ司教たるアイデンティティの誇示を読み取る。次に、全体的な構図および秘蹟図像における執行方法に両作品の明らかな相違を確認するが、一方で七秘蹟図像への銘文付き巻物、および聖ペテロとパウロを伴う中央祭壇上の聖母子彫像に際立った類似・共通性があることを明示する。とりわけ両巻物文章に共通した神学的かつ図解的な特徴から、共通の依頼主シュヴローが銘文作成者であることを考察する。この比較により、全体的な構図および七秘蹟図像における差異は制作者および図像源泉の相違による一方で、両作品に共通する銘文内容および 2 聖人を伴う聖母子図像に関しては共通の依頼主の注文による可能性を踏まえ、依頼主による図像選択とその反映について考察する。さらに《七秘蹟タペストリー》と公会議大勅書との比較を通し、当該作品においては勅書『エクスルターテ・デオ』の約 2 年後に制定された、予型論的な内容を有する公会議大勅書『カンターテ・ドミノ』との類似性を指摘し、《七秘蹟祭壇画》および《七秘蹟タペストリー》における教会史との同時代性を考察する。

次に、前章において両作品の共通図像と認めた聖ペテロとパウロを伴う中央祭壇上の聖母子彫像の比較研究を第 7 章「聖ペテロとパウロを伴う祭壇上の聖母子図像」で扱う。当時の北方地域における同図像の希少性、および両聖人を伴う聖母子図像の画面中央への配置から同図の重要性を読み取り、ヤン・ファン・エイク《教会堂の聖母子》やロヒール作《壁龕の聖母子》の聖母子図像との比較を通して、祭壇画とタペストリーにおける聖母子図像の「エクレスシア（教会）」としての特質を明らかにする。その上で《七秘蹟祭壇画》の図像と配置、そして絵画空間全体における、教会の救済史に関する象徴的な解釈を試みる。またローマと緑の深い聖ペテロとパウロ図像については勅書『エクスルターテ・デオ』にも同様の表出を確認し、当該図像におけるローマ・カトリック教会側の意識を読み取る。

以上の分析から得られた《七秘蹟祭壇画》の造形的特徴を、当時のフランスとブルゴーニュ公国の教会制作の視点から解釈を行うのが、第 8 章「フィレンツェ公会議を巡る歴史的状况」である。ここでは、教皇エウゲニウス 4 世が責任をおっていたフィレンツェ公会議の動向、依頼主シュヴローの君主であったブルゴーニュ公フィリップ善良公による教皇支持という政治的立場、そして教皇からシュヴローへの恩恵の授与としての意味合いを持つトゥルネ司教任命（1436 年）という歴史的状况を確認する。また勅書『エクスルターテ・デオ』の神学的意義と位置付けを踏まえた上で、さらに当時の記録から政治的にも物理的にもシュヴローが勅書を受容する立場にあったことを実証し、依頼主のキリスト教会における政治的状況から《七秘蹟祭壇画》の図像の一部の生成が決定された可能性を提示する。

第 9 章「証人としての画家の肖像」では、《七秘蹟祭壇画》に描かれた副次的人物の図像

分析を扱う。特に注目したのが中央の身廊部の柱の横の男性であり、ロヒールの自画像や肖像における顔の特徴、配置場所、さらに登場の仕方等との比較を通して、ロヒールの肖像（自画像）同定を試みるとともに、その登場の意義を論じる。

結では、これまで考察のまとめを行った。その結果、図像分析と図像解釈および《七秘蹟タペストリー》等との比較から浮き彫りにした《七秘蹟祭壇画》の特徴から、本作が、当時の教皇派と公会議派の対立により緊張状態にあったヨーロッパの中で教皇支持の立場にあったトゥルネ司教ジャン・シュヴローの依頼により「キリストの受難」と神の恩恵による「七秘蹟」の神学的解釈およびその執行者たる「教会」の重要性を体現した作品であり、さらに東方正教会とローマ・カトリック教会の再合同や、教皇派と公会議派との対立を調停するために開催されたフィレンツェ公会議大勅書の精神をいち早く反映した、革新的な作品であることが解明された。

(3994 字)